

## 研究活動歴の記載にあたって

- 1 提出された目録はそのままコピーするので、A4版の用紙に記載すること。
- 2 業績は、I 著書、II 総説、III 原著、IV 国際学会の Proceedings (抄録を除く)、V 学会発表、VI 特許、VII その他に分け、一連番号を付して発表年代順に記載すること。英文・邦文による区別はしないこと。  
なお、I～IIIは原則、筆頭著者を含むこととする。
  - I 著書  
現在までに蓄積された知識を系統的にまとめ、1冊で完結している資料をいう(単行本、分担執筆など)。
    - (1) 著者が単独で執筆した著書にあっては、総ページ数を記載すること。
    - (2) 数名の著者が共同で分担執筆している著書にあっては、著書名は連記し、本人の担当分について章、ページ数を列記する。
    - (3) 編者のあるものについては、著者名とは別に編者名を記載する。
    - (4) 同一の著書に2つ以上の論文を執筆している場合は、例に示すごとく、「枝番」をつけて記載すること。
  - II 総説  
特定分野の最新の研究動向を全体的に展望し、研究の現状・問題点・今後の動向などを示唆する論文。  
総説は原則として、医学中央雑誌及び Index Medicus に収載されている雑誌に掲載されたものとする。ただし、これら2誌に収録されていない雑誌については、委員会においてその都度検討する。
  - III 原著  
他者が発表していないオリジナルな雑誌論文であるが、下記のごとく分類して記載すること。
    - III-1 原著  
      - (1) いわゆる原著(原則、筆頭著者)を指し、以下の症例報告、治験報告を含まない。
      - (2) 研究会機関誌掲載の論文は、「VII その他」に記載する。
    - III-2 症例報告
    - III-3 治験報告
  - IV 国際学会の Proceedings
  - V 学会発表  
自身の学会発表及びこれに準ずるもののみ記載することとし、筆頭発表を含むこと。
  - VI 特許
  - VII その他  
ここに含まれるものについては、その都度委員会で検討する。原則としては、次のとおりとする。
    - (1) 上述した I、II、III、IV、V、VI の分類に含まれないものを記載する。
    - (2) Letter to the editor 的な短報はここに記載する。  
(ただし、査読を受けた場合は「・・・・(査読あり)」と記載してください。)
    - (3) Editorial、Correspondence 及び Supplement についてもここに記載する。  
(ただし、Reviewer の評価を受けた場合は、Supplement は「・・・・(査読あり)」と記載してください。)
    - (4) 辞典、教科書、訳書、自らの執筆部分はないが監修・編集あるいは監訳したものをここに含める。
- 3 印刷中 (in press) の場合は、掲載証明書を必ず添付すること。
- 4 業績の著者名のうち、本人名にアンダーラインを引くこと。また、本人が corresponding author の論文には※印、equally contributing author (共筆頭著者) の論文には◎印をそれぞれ番号の前に付けること。
- 5 業績の記載例は、別紙「記載例」のとおりとする。また、発表雑誌名は通例(注)に従って、省略名を用いて記載すること。  
注：通例とは、医学中央雑誌及び Index Medicus に収載されているものに準じる。
- 6 I、II、III、IV、V、VI、VII の分類で該当する業績がない場合は、当該分類欄に「該当なし」と記載すること。